

韓国の友よ

2021年8月3日

太田隆次

オリンピックの中継を見ていて韓国が出てくるたびに、韓国での仕事のことを思い出します。

1990年代の半ば頃、まだ独立して間もない私の「国際人事研究所」に、ソウルの韓国能率協会から「韓国企業の国際化」で指導して貰いたいという依頼がありました。

ちょうど1990年頃から、海外から日本への進出と、逆の日本から海外への進出が多くなり、技術、販売に次いで、人事労働関係の橋渡しの仕事も多くなった時期でした。



手前味噌ですが、韓国の話に入る前に少々説明させて頂くのをお許し下さい。

欧米企業での実務経験が幸いして、どこで聞いてくるのか内外の企業からのコンサルティングやセミナーの依頼が多くなり、気がついたら56歳から86歳までのこの30年間、飽きもせず同じ仕事を続けています。現役のサラリーマンの頃に、特に意図したことなく、人生、誰にでもある「偶然に偶然が重なった」だけです。

蛇足ですが、その時はそれほど考えなかったけれども、職業をはじめ、後から考えて見ると、「あなたのキャリアは単なる偶然ではない、それは何か計画的な偶然の積み重ねなのだ」という実証的な学説があります。（スタンフォード大学、クランボルト教授、尚、私の友人の所由紀さんが「遇キャリ」（経済界）という本で有名人の例をあげて紹介しています）

前置きが長くなりました。

韓国能率協会との打ち合わせには時間をかけました。

1. グローバリゼーションの導入手順と韓国の問題点
2. 韓国企業の人事の問題点と近代化への提言
3. 年俸制度の導入の韓国企業の問題点
4. 人材開発の進め方
5. 質疑応答
6. 同時通訳、テキストは韓国語に訳して予め配る

